

令和 2 年 6 月 26 日現在

機関番号：14602

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K17428

研究課題名(和文)中国の中等教育におけるグローバル教員の資質・能力に関する実証的研究

研究課題名(英文) Empirical Research on the Qualities and Abilities of Global Teachers of Secondary Schools in China

研究代表者

小野寺 香 (Onodera, Kaori)

奈良女子大学・アドミッションセンター・准教授

研究者番号：60708353

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではグローバル社会で教員に求められる資質・能力について、中国の高等学校で実施される教員評価制度の分析をとおして考察を行う。教員評価制度は教育課程改革が目指す「素質教育」の理念に沿って生徒の試験成績や進学率を評価規準として過度に重視せず、評価者としては同僚が中心とされている。また、教員に必要な能力として研究能力に関するものも強調されており、評価規準に研究論文数や科学研究費の採択等が含まれ、その能力向上が期待されている。教員評価制度は職階制度と連動しており、教員同士の競争によって能力を向上させることを狙いとしているが、一方で求められる同僚性の構築との共存が課題となると考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバル社会の進展にともない、学校教育によって育成すべき児童生徒の資質能力が検討されてきているが、同時に教員に求められる資質・能力についても重要課題として検討が進められてきた。グローバル社会の進展を前提とした教育実践を行うため、教員自身がグローバル化へ対応するための資質・能力を身に付ける必要性があると考えられるためである。本研究は、中国の高等学校で実施される教員評価制度の評価規準を考察することで、求められる資質能力を明らかにし、日本への示唆を得ることを目指すものである。

研究成果の概要(英文)：This study examines the qualities and abilities required of teachers in a global society through the analysis of teacher evaluation systems implemented in senior high schools in China. Based on the idea of 'quality education' that China has pursued for a few decades, the teacher evaluation system itself does not place too much importance on the student's examination results as evaluation criteria now, and, instead, research abilities of teachers themselves are emphasized as a necessary ability. Therefore, the related evaluation criteria include the number of research papers and the amount of scientific research funds. The teacher evaluation system is linked to the rank position system and aims to improve their competence through competitive environment. On the other hand, however, the critical issue is that the cooperation necessary for becoming global teachers does not exist so often in Chinese schools, and there is lack of teacher evaluation system that fosters such cooperation.

研究分野：比較教育学

キーワード：中国 中等教育 教員

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

政治、経済、文化など、あらゆる分野で国家という枠組みを乗り越えることを求めるグローバル社会の進展にともない、学校教育によって育成すべき児童生徒の資質能力と、教員に求められる資質・能力について、重要課題として検討が進められてきた。グローバル社会の進展を前提とした教育実践を行うため、教員自身がグローバル化へ対応するための資質・能力を身に付ける必要性が指摘されてきたのである。その資質については、例えば差異や人権の尊重、共生の発想や、新たな課題への積極的な対処能力や、より広い視野の獲得と捉えられ、そのためには教員養成段階での海外留学が有効であること等が指摘されてきた。ただし、その資質の具体的な検討よりも、教職課程の学生の留学制度設計（外国の大学で取得した単位の取り扱いなど）を中心に議論がなされる傾向にあった。本研究ではグローバル社会で教員に求められる資質・能力について、中国の高等学校を対象として考察を行う。

中国では1990年代から経済分野に加え教育分野でも市場原理が導入され、学校運営主体の多様化が推進されてきたなかで、近年では東部大都市の高等学校において、グローバル人材の育成等を目的として「国際部」が設けられ、年々その校数は増加してきている。「国際部」では、国際バカロレア等の教育プログラムを中国人教員が主に英語で実践し、中国人生徒の海外留学を促している。中国の高等学校を卒業後に海外の大学へ進学する生徒数は増加してきており、例えばそれがアメリカの高等教育機関における留学生数の増加の要因としても指摘される。中国の「国際部」を対象として教員の資質能力を考察することは、日本におけるそれを検討するのに示唆を与えると考えられる。

### 2. 研究の目的

中国では、1990年代以降、従来の受験偏重教育の反省から、生徒の主体的な学習態度を養う、いわゆる「素質教育」への転換を図る教育改革が進められ、そのなかで教員の資質・能力の向上を目的とした教員評価制度が導入された。教員評価結果の活用法は、昇給昇進と連動させるものと、職能成長を促すものがあるが、後者が多くの国において採用されている。日本においても、教員評価は能力開発を意図したものであることが強調されており、教員の資質向上に貢献する制度設計が求められているが、こうした傾向は中国においても同様にみられる。

中国では、教員評価制度の導入当初は、評価結果を給与へ反映させることが強調されていたが、近年は職能成長を促すものへの変換が図られてきた。また、教員評価制度の実施にあたって、教育部は「徳（政治思想）」、「能（業務水準）」、「勤（勤務態度）」、「績（勤務成績）」という基本的な四つの枠組みを定め、各枠組みに応じた具体的な評価項目の設定は各学校の裁量となるため、教員評価項目には、学校が教員に対して求める資質・能力などが反映される。この点に着目し、本研究は、中国の教員評価項目等を分析することで、中等教育段階でグローバル人材育成を担う教員に求められる資質・能力を明らかにすることを目的とする。

グローバル人材の育成は中国においても重要課題として捉えられており、グローバル人材に必要なとされる要素として「国際的な広い視野、自身の専門分野に関する最新知識、異文化コミュニケーション能力、高度な情報処理能力などの獲得」を挙げ、高等教育を中心としてその取り組みがなされている。例えば、高等教育機関が欧米のそれと連携し、学生や教員の交流を積極的に行い、また国家としては高等教育機関に対する競争的資金の配分を大きくし、国内の競争を促すことによって学術分野における国際的な水準を目指すことなどが挙げられる。

一方、中等教育におけるグローバル人材育成については政策レベルでは十分な議論がなされていない。つまり、中等教育段階においてグローバル人材育成を目指す「国際部」の発展は、政策よりも実態が先行していることを意味する。本研究はその実態において特に教員評価制度に着目し、評価項目等の分析を通じて、中等教育においてグローバル人材の育成を担う教員に求められる資質・能力を明らかにする。

### 3. 研究の方法

平成28年度は、(1)中国で教員に求められる資質・能力、(2)中国の教員評価制度、(3)中国の高級中学における教育課程改革に関する分析を行う。

(1)については、中国の教員政策文書を分析する。その際、「国際部」に限定せず、一般に教員に求められる資質・能力も整理することで、「国際部」教員の資質能力考察の際の比較対象とする。(2)については、1990年代以降、中国では教育改革において教員を対象とした評価制度に重点が置かれてきた。特に教員の雇用形態が従来の終身雇用から学校との契約制へと変更し、教員評価の重要性が増した1994年の「教師法」以降の政策に着目し、教員評価制度が成果主義型から職能成長型へと変換が図られた理念について検討する。(3)については、高級中学の教育課程改革の理念や具体的な改革内容を大学入試改革と関連させ、教員に求められる資質能力を考察する。

平成29年度は、中国の「国際部」を設置する高等学校において、教員に求める資質・能力に関する聞き取り調査と教員評価に関連する資料収集を行う。また、「国際部」の教員に求められる資質・能力の特質を浮き彫りにするため、「国際部」以外の高等学校でも同様の調査を行う。中国で教員評価項目について国家が示すのは「徳（政治思想）」、「能（業務水準）」、「勤（勤務態度）」、「績（勤務成績）」という四つの枠組みであり、これに基づいて各学校で設けられた具体的な評価項目を分析する。調査対象は、江蘇省、遼寧省とする。教員に求められる資質・能

力に関する聞き取り調査は、教諭に加えて教員評価者でもある校長を対象とする。また、教員評価に関連する資料収集を行い、多角的な観点から教員評価項目の分析を進める。

平成30年度・31年度は、平成28・29年度の研究成果を総括し、中国の中等教育においてグローバル人材育成を担う教員に求められる資質・能力を整理する。

#### 4. 研究成果

##### (1) 高級中学の教育課程改革の方向性と国際部の位置づけ

中国において2000年代以降に進められてきた教育課程改革の目的の一つに「素質教育」の浸透がある。この点に関連して、2010年に提出された「国家中長期教育改革と発展計画綱要(2010-20120)」においても最初に「素質教育の全面的な実施」を謳っている。「素質教育」は学習者の徳、知、体、美等をバランスよく発展させること、一部の生徒を対象に優秀な人材を育成するのではなく全ての生徒を対象とすること、学習者の主体性を重視することを狙いとする。それによって高等学校では教育課程の多様化が図られ、選択科目数が増加した。また、とすれば受験科目に偏りがちな日々の授業を改め、こうした多様化した内容を十分に履修させ、生徒の主体性や協働性を培うことが「素質教育」の実質化であった。この点を実りあるものにするためにも大学入試と連動させる必要があるが、例えば江蘇省では試験科目数を増加する方向で進んできたことが確認された。すなわち、大学入学試験における「総合素質評価」の範疇で芸術や体育科目の評価を反映させ、その意味で「素質教育」を徹底させてきていると言える。

なお、この教育課程改革における国際部の位置づけとしては、国際部での国際教育課程の実践が「素質教育」の効果的実施に貢献することも期待されている。中国の学校において西洋文化に基づく国際教育課程の実践を応用した教育実践がなされることに対する批判もあるが、実施が推進される背景には、教育政策においてグローバル人材の育成が強調されることがある。国際部における国際教育課程の実践が、「素質教育」理念を通して一般の高級中学教育課程においても応用される可能性が指摘できる。

##### (2) 高級中学における教員評価制度と資質能力

中国では、優秀な教員数の確保を主目的として教員評価制度が導入されたが、評価結果は人事決定に関連する仕組みであった。また、職務称号制度を導入し、学校現場において競争原理を機能させることによって教員の質の向上を図った。とくに1990年代以降、計画経済から社会主義市場経済へ移行したことで教育が市場へ押し進められ、市場メカニズムを導入することによって教育資源の拡大と学校運営の効率化が図られるようになり教員評価制度においては職階や給与との結びつきがより強調されるようになった。

また、近年、職階制度において新たに職階が加わった。これは第一に指摘した競争原理に基づく教員の質的向上を狙ったものである。また、「素質教育」の理念に沿って生徒の試験成績や進学率を評価規準として過度に重視せず、評価者としては同僚が中心となることとなった。また、教員に必要な能力として研究能力に関するものも強調されており、評価規準に研究論文数や科学研究費の採択等が含まれ、その能力向上が期待されている。

また、評価者の多元化が図られ、例えば調査対象とした高級中学では、同僚による評価が全体の四割を占めている。また、生徒による評価も全体の二割を占めていた。従来の評価制度では、管理職が主に評価を行っており、評価の公正性を保障することが困難であることが指摘されていたことに鑑みれば、多元化は必要であると考えられる。しかし、評価結果が職階の上進や昇給等の処遇を含む人事決定に関連する制度は、一般に学校に求められる同僚性の構築と共存できるのかという課題も残る。この点については、今後の検討課題としたい。

##### (3) グローバル社会において求められる高級中学教員の資質能力

グローバル社会の進展に伴い設置が進む高級中学における国際部では外国人教員もしばしば採用されるが、その際、例えば教員採用の基準として英語運用能力に多くの比重がおかれることことで、次の課題が指摘される。まず、正課外での生徒の学習支援体制の整備についてである。母語が英語でない生徒を対象として授業を行うにあたり、正課以外での適切な支援が必要となるが、それを担う人材を確保することが困難なことが指摘される。また学校運営に関わる業務の分担について、教員同士の意思疎通の課題もみられる。言語や文化の差異により、生徒および教員間の意思疎通を円滑に進めることが困難とされ、そのため、国際部では特に教員の異文化に対する理解等が必要とされる。

これは、一般に教員に求められる能力とも関連する。つまり、中国における学校教員は、基本的に個人主義で学校内における競争を通じた能力の向上を狙いとしているが、一方で同僚性の構築を目指している。教師の文化的多様性が大きい国際部には、そうした協同的な関係の在り方を模索する場として機能することが期待されているともいえる。

また、国際部の教員は、一般に生徒の成績や進学率の向上に貢献することも求められている。1990年代、中国では「素質教育」が推進され、学習者の創造的精神や課題解決力等を育成することが重視されてきた。また、グローバル化の進展にともない異文化理解や協調性の重要さも指摘されるが、一方で従前より重視されてきた狭義の学力向上への貢献も必要とされ、例えば進学実績も意識した教育実践を強いられる。教員はこうしたジレンマを抱えており、それへの向き合い方が課題と言える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小野寺香
2. 発表標題 中国における教員の職能成長
3. 学会等名 日本国際教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野寺香
2. 発表標題 中国の中等教育における教員の力量形成
3. 学会等名 日本国際教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小野寺香
2. 発表標題 中国における教員の資質・能力に関する一考察
3. 学会等名 日本国際教育学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----